



中学軟式

板橋春季

東京都少年秋季軟式野球大会リポビタント「ナメント」への出場権を懸けた支部予選「板橋区春季大会」は2日、同区の荒川戸田橋緑地野球場で決勝が行われ、城北Aが板橋ベールスポーツクラブA（以下板橋BC）を退け頂点に立った。

また、この日は東京都少年新人（中学）軟式野球大会コントリビュート「ナメント」の同支部予選が、同球場

# 城北AV

## 都切符、第一代表ゲット

優勝した城北A（いずれも都丸満撮影）



準優勝の板橋ベースボールクラブA

- ◆優勝メンバー◆  
 ⑩神谷朋仲①下都結太②櫻井継③小島和也④岩谷佳和⑤林凌生⑥岡本夏幹⑦後藤堅⑧安藤流輝⑨櫻井陽⑩龍造寺智仁⑫岡本宏樹⑬加藤貴生⑭大津光太郎⑮小林蒼梧⑯鈴木陽喜⑰田中宏和

- ◆準Vメンバー◆  
 ⑩黒崎楓⑪阿部由幸⑫梅村渉太⑬榎本祐聖⑭大野溪太⑮大森勘太郎⑯岡本尊⑰清水凜隆⑱関根琉珀⑲瀬沼拓人⑳高橋優介㉑館野大悟㉒田中久大㉓玉上莉空㉔田村涼太㉕戸松武虎㉖浜田颯来㉗桶川悠希㉘福岡憲伸㉙室野井亮太㉚八木橋永真

## 投打かみ合わず 板橋ベースボールクラブA

完封負けを喫した板橋BC。自肅が明け「早い段階から基礎トレーニングを始めていたので、体力的には大丈夫だった」と井上勇之介監督。しかし練習

試合の数が少なく「変化球の対応とか、試合感には戻っていない」と語る。

3安打3四死球で出塁。7打中4打で三塁まで進めるも後続が続かず6残塁で、ホームを奪えなかった。

それでも、都大会に向け、「投手陣はそこそこいるので、

試合は作れると思う。1点を確実に取りに行く試合をしたいと思います」と指揮官。黒崎楓主将は「自肅明けで決勝までこられたのは良かった。まずは準決勝までは行きたいです」とキッパリ。

この日の反省を生かし、投打がかみ合えば、目標以上の結果が見えてくるはずだ。

い戦いを繰り広げた。3回まで、ともにチャンスを作るもホームが遠く、均衡を破ったのは4回裏の城北の攻撃。先頭の櫻井継が中前打、四球後の後藤堅の適時打で先制した。

5回裏にも、1死一、三塁の場面で4番・櫻井継が打席に。ここで出したサインは、「エンドラ」（坂内浩之監督）。

三走・林凌生はスタートを切っていたが、悪送球でバットを振らずに打席を外してしまった櫻井継。本来なら林は三塁に戻るか、挟まれてアウトになるか。だが、捕手のポロリを見逃さなかった林は、好判断でそのまま一気に滑り込み、貴重な2点目をもぎ取った。

投げては、神谷朋仲主将が先発、投球制限内の91球で完投。3安打3四死球と出塁を許すも、要所を抑えホームを守り切った。

「しっかりと自主練習していたので、自肅明けはスムーズに、連携とか細かい所を確認するだけだった」と坂内監督。「その努力の部分と、点が取れなくても我慢しながら、ピッチャーも粘り強く投げたのが」と振り返る。都大会では、「コロナで野球のできる楽しさを非常に感じていると思う。貴重な機会にしてあげたい」と指揮官。神谷主将は「ベスト8ぐらい。まずは勝てれば」と控えめな目標を掲げた。

◆新人戦板橋支部予選▽1回戦  
 板橋BC 7-0 板三中クラブ  
 志中クラブ 13-4 加賀中クラブ  
 城北A 8-0 高三クラブ  
 榎本 10-7 0 志村中クラブ（棄権）



新人戦の1回戦を突破した城北A



5回裏、好判断で2点目のホームに滑り込む城北Aの林⑩が完封勝利し最優秀選手賞を受賞した城北Aの神谷主将



みんなのスポーツ公式HP

「みんなのスポーツ」は毎週木曜日の東京新聞（朝・夕刊）にも掲載。同地方版でも随時、記事を掲載しています。

「みんなのスポーツ」は毎週木曜日の東京新聞（朝・夕刊）にも掲載。同地方版でも随時、記事を掲載しています。

▽決勝

板橋ベールスポーツクラブA	0	0	0	0	0	0	0	0	2
城北	0	0	1	1	0	0	x		A

(板) 大野溪太、阿部由幸、福岡憲伸  
 (城) 神谷朋仲、櫻井継  
 ▼最優秀選手賞 神谷(城)  
 ▼敢闘賞 榎本祐聖(板)